

東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 464

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、アート・コミュニケーション事業の柱の一つである「とびらプロジェクト」に関連して、2020年2月11日(火・祝)に行われた「とびらプロジェクトフォーラム」^{※1}の様子をご報告します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we report on the "Tobira Project Forum" held on February 11 (Tue-holiday) 2020. The "Tobira Project Forum" is a discussion platform of the "Tobira Project," a pillar of the Museum's Art Communication Program.

プロジェクトの価値を振り返り、
これからを考える。



「とびらプロジェクトフォーラム」

Reviewing the project's value and thinking forward.
"Tobira Project Forum"

とびらプロジェクトでは、アート・コミュニケーター「とびら」募集にあわせ、理念や活動を紹介し、その価値を振り返る「とびらプロジェクトフォーラム」を行っています。2019年度は「美術館とSDGs(持続可能な開発目標)」をテーマに活動を振り返りました。

The "Tobira Project Forum" announces the next term of "Tobira" art communicator recruiting. It additionally explains the project's concept and activities, and reviews its achievements. The forum this time reviewed its activities under the theme, "The Art Museum and SDGs (Sustainable Development Goals)."

とびらプロジェクトとは？

What is the Tobira Project?

とびらプロジェクトとは美術館を拠点にアートを通じてコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。2012年度より当館と東京藝術大学が連携し始動。現在142名の一般公募された3年任期のアート・コミュニケーター「とびら」と対話を重ね活動中。

The Tobira Project is a social design project of the Tokyo Metropolitan Art Museum aimed at fostering community through art. The Tobira Project began in 2012 as a cooperative endeavor of the Museum and Tokyo University of the Arts. Currently, 142 three-year-term Tobira art communicators, recruited from the general public, are engaged in activities.

2030年の未来へ美術館とSDGs～ アート・コミュニケーターがひらく 持続可能な社会に向けて

The Art Museum and SDGs
Art communicator activities for a sustainable society

このフォーラムでは前号で報告したICOM京都大会^{※2}での議論も背景に、とびらプロジェクトの活動をSDGsの理念と照らし、アート・コミュニケーターの働きを振り返りました。

冒頭、東京藝術大学美術学部特任助手の大谷郁がプロジェクト概要を紹介。アートを介して多様性を肯定し対話のあるコミュニティを育むという理念や、作品を介し時代や場所を越えて文化と接続し社会とつながるという美術館体験の本質、そうした作品との出会いに伴走するアート・コミュニケーターの役割を伝えました。

続くトークセッションでは、当館学芸員の稲庭彩和子が「美術館とSDGs」について発表。美術館が物中心の場から物と人とのコミュニケーションが生まれる人々のつながりの場へと歴史的に変化していることを踏まえ、ICOMでの議論も引用しながら美術館とSDGsが重ねて議論されている世界の現状が報告されました。その上で、SDGsの中で一番重要なのは、「人々の関わり」、「パートナーシップ」の作り方の変革であり、特に地縁・血縁等の旧来的なコミュニティが衰退し社会的孤立が大きな問題となっている日本では、美術館を拠点とするアートを介した新しい



パネルディスカッションでは和やかに議論が交わされた Exchanging views during a congenial panel discussion

つながりに可能性がある」と述べました。その後、3人のアート・コミュニケーターが登場し、任期満了後に起業した地域の学びの場づくりや、高齢者施設での造形ワークショップ等の活動を紹介。本プロジェクトでの出会いによる人生観の変化や、平等な関係の心地よさ、さまざまな場面で感じられる「誰一人取り残さない」という考え方や、「関わり方」の感想も実感を持って語られました。

最後のパネルディスカッションでは、他者との関わりと美術の関係や、社会における対話の重要性などが語られる一方、美術館活動をSDGsで語ることへの疑問も提示されるなど、活発な意見交換がなされ、フォーラムは終了しました。

フォーラム後、281名の応募者の中から54名が新規とびらとしてプロジェクトに加わりました。今後の活動にも関心をお寄せいただけたら幸いです。(東京都美術館 学芸員 熊谷香寿美)

This forum, held in the wake of the September ICOM Kyoto 2019, examined Tobira Project activities in light of SDGs and reviewed efforts being made by art communicators. OTANI Iku (Project Research Associate, Tokyo University of the Arts) began by explaining the role of art communicators in people's encounters with art. Museum curator INANAWA Sawako then discussed "the Art Museum and SDGs." After giving an update on the state of the argument, globally, concerning art museums and SDGs, Inaniwa explained that art activities based in local art museums have a real potential to generate new connectivity among people in Japan, where social isolation is increasing due to the loss of traditional communities and regional and family ties. Thereafter, three art communicators, fresh from three-year terms, discussed approaches to "getting involved" and how the project had changed their views of life, and a lively exchange ensued in the final panel discussion. After the Forum, 54 of 281 applicants joined the project as new Tobiras. (KUMAGAI Kazumi, Assistant Curator)



同日開催された第2部にも多くの来場者が参加した
Many visitors also attended part two of the Forum, held the same day

※1/ここでは第1部の様子を紹介する。第1部登壇者：日比野克彦(東京藝術大学美術学部長、岐阜県美術館館長、とびらプロジェクト代表教員)、西村佳哲(リビングワールド代表、とびらプロジェクト・アドバイザー)、森司(アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長、とびらプロジェクト・アドバイザー)、三ツ木紀英(NPO法人芸術資源開発機構代表理事)、稲庭彩和子(東京都美術館アート・コミュニケーション係長、とびらプロジェクト・マネージャ)、伊藤達矢(東京藝術大学美術学部特任准教授、とびらプロジェクト・マネージャ)、大谷郁(東京藝術大学美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、アート・コミュニケーター(上神田健太、平野文千、木村仁美) / 記録動画<https://tobira-project.info/movie1> ※2/第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019、2019年9月1日～7日に京都で開催された

小松宮^{あきひと}彰仁親王(弘化3(1846)年～明治36(1903)年)は、伏見宮^{くにいえ}邦家親王の第8王子として生まれ、戊辰戦争、西南戦争に従軍した後、日本赤十字社の総裁となり、社会奉仕活動の発展に貢献しました。銅像は靖国神社の大村益次郎像と同じ大熊^{うじひろ}氏廣の作、台座は岡田信一郎の設計により、明治45(1912)年に建立されました。岡田は上野公園では東京府美術館(1926年)、黒田記念館(1928年)、東京藝術大学陳列館(1929年)の設計者でもあり、様式建築の名手として知られています。(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)

Prince Komatsu no miya Akihito (1846-1903) was the eighth son of Prince Fushimi no miya Kuniie. After serving in the Boshin War and Satsuma Rebellion, he became president of The Japanese Red Cross Society and contributed to the development of social service activities. The bronze statue is by sculptor OKUMA Ujihiro, who also created the Statue of Omura Masujiro at Yasukuni Shrine. This Prince Akihito statue was raised in 1912 on a pedestal designed by OKADA Shinichiro. Okada—who also designed the Tokyo Prefectural Art Museum in Ueno Park (1926), Kuroda Memorial Hall (1928), and Chinretsukan Gallery, The University Art Museum, Tokyo University of the Arts (1926)—is renowned as a master designer in the Western style.

(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)



小松宮彰仁親王銅像

BRONZE STATUE OF THE PRINCE KOMATSU NO MIYA AKIHITO

東京都美術館 ニュース No.464

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2020年9月30日
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、
2020年6月30日発行を延期

発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

企画・編集 東京都美術館 広報担当

デザイン 株式会社ファントムグラフィックス

翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ

印刷・製本 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel 03-3823-6921
Fax 03-3823-6920

公式サイト
<https://www.tobikan.jp>

Twitter
tobikan_jp
tobikan_en

Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の
写真

井上武吉《my sky hole 85-2 光と影》1985年
INOUE Bukichi, *my sky hole 85-2: light and shadow*, 1985